
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.53 Feb, 2009

目次

第 43 回研究発表会	1
理事会報告	2
平成 20 年度第 2 回理事会	2
平成 20 年度第 3 回理事会	3
企画委員会報告	4
平成 20 年度第 3 回企画委員会	4
シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」開催報告	5
シンポジウム「保物セミナー2008」開催報告	6
編集委員会報告	6
平成 20 年度第 2 回編集委員会	6
国際対応委員会報告	8
放射線防護標準化委員会	8
第 23 回幹事会	8
第 2 回専門部会準備会	9
第 6 回委員会	9
若手研究会	10
活動報告	10
学友会	11
活動報告	11
専門研究会報告	12
放射線リスクコミュニケーション（第 8 回）	12
ラドン測定標準化（第 2 回）	13
放射線安全新パラダイム（第 3 回）	13
学会掲示板	14
次期専門研究会の募集結果について	14
インターネットグループの活動	14
学会刊行物の案内	14
書評「改訂版 放射線管理実務マニュアル」	15

第 43 回研究発表会のご案内

日本保健物理学会第 43 回研究発表会（大阪大会）を下記の要領で開催致します。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

去る 2 月 14 日に発表演題申込を締め切りました。予想を上回る数の申込を頂きました。実行委員会一同、これを励みに大会当日まで準備に精一杯努力する所存です。

また、研究発表会のメインテーマですが、法人制度の検討が進められており、組織としての学会、学問としての保健物理の両面について「今とこれから」を考える機会といたく、様々な企画セッションを計画しています。

1. 会 期
 平成 21 年 6 月 3 日（水）、4 日（木）
2. 会 場

シェラトン都ホテル大阪
〒543-0001
大阪府大阪市天王寺区上本町 6-1-55
電話：06-6773-1111
近鉄「上本町駅」直結

3. 要旨原稿提出期限
平成 21 年 4 月 3 日（金）必着
4. 参加申込期限
平成 21 年 5 月 11 日（月）必着
5. 参加費
会 員 7000 円
非 会 員 8000 円
学生会員 2000 円

（第 43 回研究発表会大会長 近畿大学 伊藤 哲夫）

理事会報告

平成 20 年度第 2 回 理事会 議事概要

1. 日時：平成 20 年 6 月 25 日（水） 16:00～18:00
2. 場所：那覇市てんぶす館（沖縄） 3F 会議室
3. 出席者
理事：小田（会長）、猪俣、太田、斎藤、杉浦、服部、林、古田、山澤、村上
監事：千葉
参与：荻野、小池
委任出席：酒井、谷口、福士、下
4. 議事概要
 - (1) 編集委員会活動報告があり、解説記事についての「二重投稿」に関し、文章そのものについては認められないが、内容については容認することとした旨の説明があり了解された。また、投稿から論文掲載までの時間の短縮について、検討状況の説明があった。
 - (2) 企画委員会報告では、シンポジウム企画案及び ICPR 新消化管モデル専門研究会のメンバー変更等の報告があった。また、次年度より、専門研究会の活動費を 20 万円にする検討を進め、今年度の実績確認をしたいとの説明があった。
 - (3) 放射線防護標準化委員会の状況報告があり、この中で「重要な概念」に係るコメントへの対応について、原案の一部文章の修正を行うことが説明された。また委員会への若手研からの参加について確認された。
 - (4) 教員協議会・学友会報告では、学会誌への卒論・修論・学位論文のタイトル等の掲載、大学等教員協議会の開催予定、学友会と若手研の共同イベントの構想等についての説明があった。
 - (5) 若手研活動状況について、今年度の活動計画について報告があった。またこれらについて、学友会にも情報提供をすることとした。
 - (6) 学会規定の会員証の提示に関する条文案について了解され、規定及び学会内規第 2 号（名誉会員及び特別会員に関する内規）及び第 7 号（会員の資格と権利に関する内規）の制改定について承認された。
 - (7) 入退会について承認された。
入会：（正会員）2 名
退会：（正会員）3 名
 - (8) 国際対応委員会報告として、IRPA 事務会合対応、中国及び韓国との交流に係る計画等について説明があった。IRPA 理事の“アジア枠”を確保するための候補推薦の方法についての方針が確認された。IRPA から要請のあった途上国からの参加補助負担については、予備費の中から \$1000 を拠出することとした。
韓国及び中国で予定されている研究発表会合への派遣について、過去の論文賞や奨励賞の受賞者、専門研究会の担当者などを軸に検討することとした。

以下、メーリング理事会。

- (9) 入退会の承認及び ISBN 分担金について承認された。[メーリング理事会 H20-7]

-
-
- ① 入退会の承認 (7月8日付)
 - 入会：(正会員) 1名
 - 退会：(正会員) 3名
 - ② ISBN 分担金についての支出が承認された。(7月15日付)
 - (10) 入退会について承認された。[メーリング理事会 H20-8] (7月18日付)
 - 入会：(正会員) 2名
 - 退会：(正会員) 2名
 - (11) 入退会について承認された。[メーリング理事会 H20-9] (7月28日付)
 - 入会：(準学生会員) 3名
 - (12) 退会の承認及び協賛の承認について。[メーリング理事会 H20-10] (8月21日付)
 - ① 退会の承認
 - 退会：(正会員) 2名
 - ② 協賛の承認
 - 第3回原子力産業セミナーの協賛について承認された。
 - (13) 入退会について承認された。[メーリング理事会 H20-11] (8月29日付)
 - 入会：(正会員) 4名
 - 退会：(正会員) 1名

(原子力機構 村上 博幸)

平成20年度第3回 理事会 議事概要

1. 日時：平成20年9月8日(月) 13:30～17:00
2. 場所：原子力機構システム計算センター
3. 出席者
 - 理事：小田(会長)、猪俣、太田、杉浦、谷口、服部、福士、古田、山澤、古川
 - 監事：下、千葉
 - 参与：荻野
 - 委任出席：斉藤、酒井、林、村上
4. 議事概要
 - (1) 研究発表会第42回大会(沖縄大会) 実行委員長より沖縄大会の開催報告及び申し送り事項の紹介があった。また、次年度大阪大会の準備状況の紹介があった。
 - (2) 編集委員会の状況報告があり、学会誌掲載予定記事に関する速報のHP掲載、投稿論文の点数評価方法の変更、新しい英文連載記事の企画等について説明があった。
 - (3) 企画委員会の状況報告として、シンポジウム企画案の説明及び保物メーリングリストの利用等についての注意喚起に係る報告があった。また委員の交代について承認された。
 - (4) 国際対応委員会の活動状況報告があった。また、日中韓学会間の連携活動の一環として、韓国放射線防護学会(11/20-21)、中国放射線防護学会(11/10-14)の研究発表会へ2名ずつ学会員を派遣することが承認された。
 - (5) 放射線防護標準化委員会の状況報告があり、委員会役員等の選任結果のうち、委員長委嘱について了承された。また、表面汚染標準について作業会の設置準備が進められている旨の紹介があった。
 - (6) 大学等教員協議会の状況報告及び第2回学友会研究発表会の予定について説明があった。
 - (7) 広報関係の状況報告として、放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会シンポジウムの開催案内を報道機関に送った旨の紹介があった。
 - (8) 他学会等との対応について状況報告があり、2015年に計画されているICRRの開催に関する提案募集に対しては、特に提案なしで回答する旨の提案があり、了承された。また、安全管理学会との連携の具体的活動として、合同の企画委員会の開催の検討を進めている旨が紹介された。
 - (9) 第1回若手勉強会などの実績について紹介があった。
 - (10) 次期役員への選挙に向けたスケジュール等の確認を行った。
 - (11) 次期学会賞選考委員会メンバー選考方針について説明があり、承認された。
 - (12) 学会活動評価について、外部評価を受ける状況にないため、現理事の内部評価に留めるとの提案が了承された。
 - (13) 入会について承認された。

入会：（正会員）2名

- (14) 法人制度の検討状況等について紹介があり、今後もワーキンググループで詳細を議論し、法人化の必要性などについて会員へしっかりと説明することが必要、等の意見が出された。
- (15) 保物セミナー主催及び同分担金負担について承認された。
- (16) 学会事務センターの住所変更に伴う学会規定改定について承認された。

以下、メーリング理事会。

- (17) 「日本保健物理学会」及び「日本放射線防護学会」の商標登録について承認された。[メーリング理事会 H20-12] (9月22日付)
- (18) 2008年放影協講演会「放射線の健康影響とリスクコミュニケーション」の後援について承認された。 [メーリング理事会 H20-13] (9月29日付)
- (19) 入退会について承認された。 [メーリング理事会 H20-14] (10月8日付)
- 入会：（正会員）1名
（準学生会員）1名
- 退会：（正会員）7名
（賛助会員）1機関
- (20) 放射線標準化委員会の委員3名の交替について承認された。[メーリング理事会 H20-15] (10月15日付)
- (21) 入会の承認及びアイソトープ・放射線研究発表会共催の承認について[メーリング理事会 H20-16]
- ① 入会について承認された。(10月28日付)
- 入会：（正会員）2名
- ② 第46回アイソトープ・放射線研究発表会の共催について承認され、同運営委員推薦者を決定した。(10月28日付)

(原子力機構 村上 博幸)

企画委員会報告

平成20年度第3回 企画委員会 議事録

1. 日時：平成21年1月16日（金）13:30～16:30
2. 場所：原子力機構東京事務所第1会議室
3. 出席者
古田(委員長), 近江, 飯本, 大内, 伴, 米原, 渡辺_浩, 山崎, 細田, 中田 (幹事)
4. 議 題
 - (1) 第2回企画委員会議事録確認
 - (2) 理事会報告
 - (3) シンポジウム企画等
 - (4) 専門研究会活動報告
 - (5) 次期専門研究会について
 - (6) インターネットグループ報告
 - (7) その他
配布資料
 - 3-1 平成20第2回企画委員会議事録(案)
 - 3-2 20年度第4回保健物理学会理事会議事録
 - 3-3 シンポジウム「放射線リスクのよりよい理解のために」開催報告
 - 3-4 シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」開催報告
 - 3-5 保物セミナー2008における「新しい国際放射線防護基準への現場の対応に係る論点」
 - 3-6 日本放射線安全管理学会研究発表会におけるパネルディスカッション印象記
 - 3-7 インターネットグループの活動について
 - 3-8 メーリングリスト登録者増員キャンペーンについて
 - 3-9 屋内ラドン規制対応委員会の再設置の提案
5. 議 事
 - (1) 第1回企画委員会議事録確認

前回会合の議事録を確認し了承された。

(2) 理事会報告

理事会での議事・報告事項を確認した。学会誌の電子アーカイブ対象の件、規定の改正に伴い会員証の提示や法人化に関する検討状況、IRPA等の国際会議の状況等について報告された。

(3) シンポジウム企画等

資料3-3～6に基づき10月4日（「放射線リスクのよりよい理解のために」）及び10月31日（「低線量放射線による生物影響の最前線」）に開催したシンポジウム、11月27～28に開催した保物セミナー、12月5日に開催された日本放射線安全管理学会研究発表会におけるセッション「放射線管理関連の各学会等はそれぞれ何を目標しているか」に関する報告が行われた。また、シンポジウムに関しては決算報告も併せてあり、予算上の収支比率と合っており問題の無いことが確認された。

(4) 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から以下のように報告があった。

- ・放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、リスコミのベーシックなあり方が理解されていないのではとの問題意識があり、このため第43回研究発表会でディスカッションを希望。
- ・ラドン測定標準化専門研究会では、第3回会合を1月16日に開催。各施設における測定の標準化に関する取り組みの紹介。国際的な動向の情報交換。12～1月に、インターコンパソン試験を実施。
- ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会では12月10日に第3回会合を開催し、その際、放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 副センター長の丹羽 太貫 先生を招いて講演、国際動向の確認等を実施。

（詳細はNewsletter各専門委員会報告を参照）

(5) 次期専門研究会について

次期専門研究会は、募集期間内には応募がなかったことが報告された。委員から国際機関等において屋内ラドンの線量換算係数や参考レベルの値が大きく変更される可能性があり、その対応のための専門研究会または対応委員会の再設置について提案された（資料3-9）。しかし、設置に関しては、ICRPやWHOの動向が未定なため、開始時期については今後調整することとした。

(6) インターネットグループ報告

- ・メーリングリストのルールについての再周知と登録者を増やすことを目的としてお知らせメールを流したが、登録者の増加は見られなかった。（資料3-8）
- ・Newsletter No.53は、2月末を目途に発行することとした。
- ・次期インターネットグループの体制について、今後、若手研や学友会と調整し、グループ員の確保を進めることとした。

(7) その他

次回の会合調整

（企画委員会 原子力機構 中田 陽）

シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」開催報告

1. 日時：2008年10月31日（金）13:00～17:00
2. 場所：東京大学工学部11号館講堂（本郷キャンパス）
3. 概要

ICRP2007年勧告が出され、放射線の影響についても新たな知見が増えてきており、その中で組織加重係数の変更や、小さな被ばく量で構成される大きな集団を対象にしたガン死亡数の予測評価が不適切であるなどが述べられている。放射線の生物影響の知見は放射線の防護のあり方を左右する重要かつ根本的な課題であり、将来の規制の方向にも結びつくと考えられることから、ICRPで放射線影響を担当されている先生方や、放射線影響の最前線で研究をされている先生方をお招きして、総参加者69名により標記シンポジウムを開催した。

最初に、放医研の丹羽先生からLNTについてBEIRは科学的とし、フランス科学アカデミーはそうではないとし、またICRP新勧告では従来のLNT仮説という表現からLNTモデルという表現を用いている。新勧告は数値の変更は小さいが概念としては大きな変化と述べられた。続いて甲斐先生からは放射線のリスクを分かりやすくするために、新たなリスク論を他分野との協力で構築すべきと提言された。小林先生からはマイクロビーム照射により放射線の種類によって影響効果が異なり、バイスタンダー効果により非ヒット細胞にも適応応答やがん化の可能性について説明された。休憩の後、斎藤先生からは、冒頭でDNAへの放射線ヒットと野球との類似性を分かりやすく解説され、複雑なクラスターDNA損傷・修復のモデル化について述べられた。続く

吉永先生からは、低線量放射線の疫学調査の交絡因子や測定値などの不確実性による難しさについて説明された。次に、化学物質でのリスク評価の手法について、不確実性の要因や種間の差異、個体間の差異などの係数の利用等について解説された。最後に、総合討論として、小さな被ばく量を大きな集団に対して予測評価がなぜ不適切か、疫学調査に使われる被ばくの単位、15カ国の原子力作業員の疫学調査の問題点などが議論され、盛況のうちに終了した。

<プログラム>

13:00-13:05 開会挨拶

座長：斎藤公明（原子力機構）

13:05-13:35 放射線による生物影響の最前線とリスク評価体系：丹羽太貫（放医研）

13:35-14:05 放射線防護におけるリスク評価とその意味合い：甲斐倫明（大分看科大）

14:05-14:35 放射線誘発バイスタンダー効果と細胞間情報伝達：小林泰彦（原子力機構）

座長：酒井一夫（放医研）

14:50-15:20 クラスターDNA損傷・修復のモデル研究：斎藤公明（原子力機構）

15:20-15:50 低線量放射線影響に関する疫学研究：吉永信治（放医研）

15:50-16:20 化学物質のリスク評価の概要：広瀬明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

16:20-17:00 総合討論（講師全員）



（原子力機構 古田 定昭）

シンポジウム「保物セミナー2008」開催報告

恒例の保物セミナーが本学会など6団体で構成する実行委員会が主催で、昨年11月27日と28日の2日間、京都で開催された。特別講演として、岸田 哲二氏による「柔軟な原子力防護体系の発展」と、文科省放射線規制室の中矢隆夫室長による「最近の放射線安全規制の動向について」の2つの講演があった。また小田啓二学会長による法人制度の検討状況の説明も行われた。初日のセッションであった「放射線利用の最前線」では放射線の照射利用の現状について紹介があり、2日目午前中の「廃棄物処分の検討の現状」のセッションでは、現在国の委員会等で議論が高まっている廃棄物問題について、高レベル廃棄物の現状、低レベル廃棄物の安全規制基準の検討やその現状、ウラン廃棄物の問題点、RI・医療放射性廃棄物の現状と将来に関する専門家からの講演があった。それぞれの本学会企画セッションとして「新しい国際放射線防護基準への現場の対応に係る論点」というテーマが取り上げられた。ICRP2007年勧告が発行され、IAEAの国際基本安全基準の改定が作業中であるが、それらの内容や状況についての説明の後に、原子力発電所、RI施設、医療現場における対応についての講演があった。総合討論では、安全基準についての大きな法令改正はないと考えられるが防護の最適化においては、それぞれの現場にあった方策が重要であり、それぞれの現場での組織的な対応が重要であることが認識された。

（放医研 米原 英典）

編集委員会報告

平成20年度第2回 編集委員会報告

1. 日時：平成20年9月11日（水）13：30～16：00
2. 場所：日本原子力研究開発機構システム計算科学センター大会議室

-
3. 出席：斎藤（委員長）、木名瀬（幹事）、石川、木内、木村、小池、真田、中野、安岡、横山、山澤、大倉（若手）、笠原（事務局）、平（林代理）
4. 議題
- (1) 第1回編集委員会議事録確認
 - (2) 形式査読時の在り方
 - (3) 投稿論文点数評価法
 - (4) web などを用いた掲載決定論文の案内
 - (5) 投稿勧誘(報告)
 - (6) 企画記事提案
 - (7) 論文審査状況, 43-3, 4号編集進捗状況の確認
 - (8) その他
- 配布資料
- 2-1 2008年度第1回編集委員会議事録（案）
 - 2-2 形式査読の在り方
 - 2-3 投稿論文点数評価法
 - 2-4 掲載決定論文の案内
 - 2-5 投稿勧誘報告
 - 2-6-1 企画記事提案
 - 2-6-2 英文記事(C区分記事)の充実化に関する提案
 - 2-6-3 Aパート進捗状況
 - 2-6-4 Bパート進捗状況
 - 2-6-5 Cパート進捗状況
 - 2-6-6 若手研究会記事
 - 2-7-1 43-3, 43-4号編集状況
 - 2-7-2 論文審査状況
5. 議事
- (1) 前回議事録の確認
2008年度第1回編集委員会議事録が承認された。
 - (2) 形式査読時の在り方
投稿種別の審査については、査読委員による審査をまず実施し、最終決定は編集委員会が行うこととした。明らかに種別が適切でない原稿に関しては、形式査読の時点で判断を行い著者へ通知することとした。また、査読原稿の担当編集委員・査読委員の所属は、著者の所属と同じにならないよう配慮することとなった。
 - (3) 投稿論文点数評価法
査読委員による新投稿論文点数評価法が提案され、了承された。また、解説記事については、学会賞選考対象にならないため、今後評価しないこととした。
 - (4) web などを用いた掲載決定論文の案内
学会誌刊行の1月半前を目処に、学会ホームページにおいて、学会誌掲載決定記事タイトル等の掲示を行うこととした。
 - (5) 投稿勧誘(報告)
第42回研究発表会において、優れた発表30件に対して、投稿勧誘を行ったことが報告された。
 - (6) 企画記事提案
A, B, Cパートの企画記事が提案され、了承された。Cパートの企画記事の充実化を図るため、世界各国の放射線防護の現状を紹介する「Radiation Protection in the World」コーナーの設置が提案され、了承された。また、国内の研究機関のホームページ等において公表されている保健物理に関連した英文記事の転載について検討することとなった。
企画委員会主催によるシンポジウム、放射線安全管理学会、韓国や中国で開催される学会などの話題提供を関係者に要請することとした。
 - (7) 論文審査状況, 43-3, 4号編集進捗状況の確認
次号43-3号以降の掲載論文の審査状況が確認された。
 - (8) その他
今回の会合は、平成20年12月11日（木）13時30分から、東京で開催されることとなった。
-

国際対応委員会報告

1. IRPA (国際放射線防護学会) 対応

10月19日から24日にかけてブエノスアイレスにて開催された第12回IRPA国際会議の会期中、10月22日に開催された総会に日本より8名(小田会長、杉浦副会長、酒井国際委員会委員長、服部同副委員長、小佐古敏荘会員[東京大]、中村尚司会員[東北大]、占部逸正会員[福山大]、保田浩志会員[放医研])が参加した。

- (1) IRPA理事(任期2008年-2012年)の選挙にあたり「アジアからの代表」として推していたKim AOARP会長(韓国)が選出された。また、会長には米国Kenneth Kase氏が選出された。
- (2) 2012年の第13回IRPA国際会議は5月13日-18日にグラスゴーにて、また2016年の第14回IRPA国際会議はケープタウンにて(日程未定)開催することが決まった。

2. 第13回IRPA国際会議(IRPA13)対応

- (1) IRPA13の国際プログラム委員会Ted Lazo委員長(OECD/NEA)より「加速器及びシンクロトロンにおける放射線防護」の専門家の同委員会への推薦依頼があった。理事会にて検討の結果、浅野芳裕会員(理研/Spring 8)を推薦した。
- (2) プログラム委員会をサポートするCorresponding memberの推薦依頼に対し、理事会にて専門分野を含めて検討した結果、杉浦副会長、酒井国際対応委員会委員長および服部同副委員長の3名を推薦した。

3. AOARP (アジアオセアニア放射線防護学会) 理事会

10月21日に、IRPAの地域組織(Regional Association)として位置づけられているAOARPの理事会が開催された。

- (1) 新たにマレーシアがAOARPに加わったことが報告された。これで、構成国はオーストラリア、中国、インド、日本、韓国、フィリピンと合わせ、7カ国となった。
- (2) 2010年5月24-28日に東京にて開催される第3回アジアオセアニア放射線防護学会大会(AOGRP-3)の準備状況につき報告があった。

4. 中国および韓国との連携

(1) 3カ国連携に関する覚書の取交わり

2008年11月11日、中国放射線防護学会および韓国放射線防護学会ならびに日本保健物理学会の間で、それぞれの年会、学術大会に輪番で各国の代表を招待し、これを通じてお互いの連携強化を目指すことを旨とする覚書を取交わした。

(2) 中国放射線防護学会(CRPA)への会員の派遣

CRPA 2008年年会(北京。2008年11月11日-14日)への招待に対応し、高橋史明会員(JAEA。2007年度論文賞受賞者)および酒井国際対応委員会委員長を派遣した。高橋会員による「参加記」は『保健物理』誌に掲載の予定である。

(3) 韓国放射線防護学会(KARP)への会員の派遣

KARP 2008年秋季大会(Tongyeong市。11月20日-21日)への招待に対応し、小田会長および野口邦和会員(日本大学)を派遣した。小田会長は「放射線防護に用いる線量概念の専門研究会(2005-2006)」の成果について、野口会員は「航空機搭乗者の宇宙線被ばくに関する専門研究会(2004-2005)」の成果について発表を行った。

5. 放射線審議会からの用語に関する検討への対応

放射線審議会基本部会にてICRP2007年勧告の国内法令取り入れの検討が進められているところ、事務局(文科省放射線規制室)から訳語の適切性について放射線防護の専門家集団として意見を求められた。国際対応委員会委員の意見を聴取し、「ICRP2007年勧告における主な専門用語の翻訳へのコメント」として取りまとめた。コメントは保健物理学会ホームページに掲載の予定である。

(放医研 酒井 一夫)

放射線防護標準化委員会

第23回 幹事会

1. 日時：平成20年10月28日(火) 11:00~12:00
2. 場所：東電東新ビル105会議室
3. 出席者：小佐古(委員長)、猪俣(理事)、飯本、杉浦、片岡(幹事)、佐藤(鈴木幹事代理)

河田、田中、荻野（オブザーバー）

4. 議事概要

- (1) 専門部会準備会について
委員の追加等を検討した
- (2) 第6回放射線防護標準化委員会の開催について
議事（案）を検討し、日時、場所を決定した。

第2回 専門部会準備会

1. 日時：平成20年10月28日（火）12：00～15：00
2. 場所：東電東新ビル105会議室
3. 出席者：小佐古（委員長）、猪俣（理事）、飯本、杉浦、片岡（幹事）、佐藤（鈴木幹事代理）
河田、田中、荻野（オブザーバー）
4. 議事概要
 - (1) 安全規準（案）及び関連ガイドライン（案）等の審議と今後の工程について
 - ① 「現存する被ばく状況に関する防護の安全基準（案）」とこれに関連する「ラドンに関する防護のガイドライン」、「NORM等に関する防護のガイドライン」、「航空機被ばくに関する防護のガイドライン」、「ラドンに関する防護のガイドライン」、「NORM等に関する防護のガイドライン」、「航空機被ばくに関する防護のガイドライン」について、検討した
 - ② この検討結果を幹事が中心として調整し、修正案を作成することとした
 - ③ 修正案に対し放射線防護標準化委員会委員のコメントを求め、コメントを反映した最終案を第6回放射線防護標準化委員会で審議することとした
 - (2) 表面汚染作業会について
 - ① 表面汚染免除レベル評価対象核種の選定方法に関する国内研究の紹介があった
 - ② 今後の活動の方向として、持ち出し基準とクリアランス、規制免除、除外などの概念の整合性、をポイントに議論した
 - (3) 専門部会準備会について
 - ① 委員の追加等を了承した
 - ・ 副部会長：鈴木
 - ・ 委員：河田、荻野、西藤、保田
 - ・ 常時参加者：田中、佐藤

第6回 放射線防護標準化委員会

1. 日時：平成20年12月4日（木）10：00～12：30
2. 場所：東京大学大学院工学系研究科8号館222会議室（東京）
東京大学大学院工学系研究科原子力専攻2階会議室（東海）
3. 出席者：小佐古（委員長）、野口、金子（副委員長）、杉浦、飯本、山本、橋本、鈴木、片岡（幹事）、下、服部、中居、飯塚、千葉、近江、白木、河田、猪俣、吉田（委員）
4. 配布資料

資料6-1-1 日本保健物理学会 第5回放射線防護標準化委員会 議事録

資料6-1-2 幹事会、専門部会準備会議事録

資料6-2 標準化委員会の組織について

資料6-3-1 専門部会準備会の組織について

資料6-3-2

 - ① 「現存する被ばくの状況に関する防護の安全規準」等の公衆審査にあたって（案）
 - ② 現存する被ばくの状況に関する防護の安全規準（案）
 - ③ ラドンに関する防護のガイドライン（案）
 - ④ NORM等に関する防護のガイドライン（案）
 - ⑤ 航空機被ばくに関する防護のガイドライン（案）
 - ⑥ 重要な概念（行為と介入）（変更案）

資料6-3-3 ラドンに関する防護のガイドラインのうち「ウラン廃棄物処分場とその周辺」における防護の基準にかかわる検討作業会について

資料6-4 標準化委員会開催のホームページの案内について

5. 議事概要

(1) 放射線防護標準化委員の追加変更等について

- ① 谷口氏、中山氏、東氏、片岡氏の4委員の退任と近江氏、白木氏、猪俣氏の3委員の選任が理事会により承認された旨が報告された
- ② 運営規則、同細則の手順に従い田中氏の委員就任が議決され、理事会承認の後、同氏は委員長より幹事に指名されることとなった

(2) 専門部会準備会委員追加変更及び作業会の活動進捗状況について

- ① 荻野氏、河田氏、西藤氏、保田氏、田中氏の計5名の委員就任を承認した
- ② 「表面汚染」作業会（仮称）活動進捗状況について報告があった
- ③ 「ウラン廃棄物処分場とその周辺における防護の規準」作業会（仮称）について作業の進め方について報告があった

(3) 資料 6-3-2①～⑥について審議され、一部修正の後、運用細則に基づきメール投票することが議決された。また、使用されている用語やその解釈についての誤解を避けるために、IAEA や ICRP などの用語集を参考にし、用語集を整備することとした

（放射線防護標準化委員会幹事 東京大学 飯本 武志）

若手研究会

活動報告

1. 主査・幹事会合の実施

主査・幹事会合を10月7日、11月22日及び平成21年2月6日に開催いたしました。主な議題は以下の通りとなっております。詳細は、日本保健物理学会誌43-4号の若手研のページをご覧ください。

- (1) 「学友会」との共催企画の提案
 - (2) 第2回若手研勉強会
 - (3) 平成20年度若手セミナー
 - (4) 第3回以降の若手勉強会及び若手発表会の企画
 - (5) JHPS 学会誌（若手研究会のページ）について
 - (6) 来年度研究発表会の若手セッションについて
2. 平成20年度若手セミナー実施報告

本年度の若手セミナーは1988年に企画委員会で承認されて以降、第19回目の若手セミナーとなります。本年度は、2008年11月22日（土）に東京大学アイソトープ総合センターにおいて開催いたしました。日本原子力研究開発機構（JAEA）の橋本周先生を講師として招き、「ICRP（国際放射線防護委員会）新勧告勉強会」というタイトルでご講演を頂戴いたしました。若手研メンバーの他にも学友会からご参加いただき、総勢11名の参加者となりました。前回のICRP勧告からの変更点、考え方の違いなどについて活発な議論が行われると共に、IAEA（国際原子力機関）のBSS（国際基本安全基準）の改訂等を含めた放射線防護体系について議論がなされました。勉強会の印象記は44-1号にて掲載される予定です。

3. 第2回日本保健物理学会研究発表会への参加（第2回若手勉強会）

平成20年12月11日から2日間にわたり、学友会主催の下、「第2回日本保健物理学会学生発表会」が東京大学アイソトープ総合センターにて開催されました。若手研究会からも「若手研究会から学友会へのメッセージ」と題し、1時間の枠を設けていただきました。学友会から若手研究会に対する14つの質問事項（研究の道を選んだ理由、職場で求められる人物像、研究に対するモチベーション維持など）質問事項への返答については、若手研究会のページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/wakate/wakate/wakate.html>

に掲載しているため、興味のある方はご覧ください。続いて、現場技術員、研究者、大学関係者、企業関係者による業務紹介や若手職員の考えに関する講演が実施されました。今後も若手研究会は、定期的に学友会との共同企画を実施していきたいと考えております。

4. 第3回若手勉強会の実施報告

今年度より、若手勉強会が定期的に開催することになりました。第3回勉強会は、JAEAの三枝純先生を講師として招き、「代表点法を用いたゲルマニウム半導体検出器の効率校正」というタイトルでご講演を頂戴い

たしました。また、JAEA 原子力科学研究所の施設見学及び J-PARC の物質・生命科学実験施設（下写真）と原子核・素粒子実験施設という最先端施設の見学を開催いたしました。施設見学と講演共では、活発な質疑がなされました。勉強会の印象記は 44-2 号にて掲載される予定です。今後も興味深い勉強会をどんどん開催してまいりますので、皆様（特に若手の方歓迎）も是非ご参加ください。

5. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は 50 名（平成 21 年 2 月 6 日）です。35 歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：山外 功太郎（日本原子力研究開発機構）

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-5933

E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

幹事：荻野 晴之（電力中央研究所）

TEL：03-3480-2111, FAX：03-3480-3564

E-mail：haruyuki@criepi.denken.or.jp

幹事：小池 裕也（東京大学）

TEL：03-5841-2876, FAX：03-5841-3049

E-mail：koi@ric.u-tokyo.ac.jp



平成 20 年度若手研セミナーを終えて



J-PARC 物質・生命科学実験ビームラインを前に

（原子力機構 山外 功太郎）

学友会

活動報告

2008 年 12 月 11 日、12 日に、第 2 回日本保健物理学会学生発表会が、東京大学アイソトープ総合センターにて開催されました。本発表会は、学友会にとって年に一度の一大イベントであり、多くの方々のご協力の下、7 つのセッション、1 件の基調講演、3 件の企業紹介、さらに「若手研究会から学友会へのメッセージ」と題した 1 件の Coffee Break Lecture によって構成され、開催する運びとなりました。

本発表会の目的として、第一に、学生間の交流・議論の場を設けるという点があります。また第二に、普段あまり口頭発表をする機会のない学生にとっての練習の場としての役割を担うという点があります。そんな中、本年度は実に 26 件もの学生による口頭発表が行われ、それぞれの発表において活発な議論が交わされました。また、発表者の中には学部生も多数見受けられ、初めての口頭発表にも堂々と臨んでいたように思います。これらのことから、本発表会の目的を十分に達成できたのではないかと思います。

さらには、基調講演として名古屋大学の小山修司先生から「医療診断 X 線の計測とシミュレーション」と題してご講演を頂きました。また、第 2 回からの新しい試みの一つとして企業による研究、業務紹介がありました。発表された企業は原子燃料工業株式会社様、日本原燃株式会社様、東京電力株式会社様でした。もう一つ新しい試みとして、Coffee Break Lecture において、日本保健物理学会の若手研から「学友会へのメッセージ」と題しまして

4人の先輩方からご講演がありました。ご講演を頂いた若手研の方々は、JAEAの山外功太郎様、電力中央研究所の荻野晴之様、東京大学の小池裕也様、VICの城戸寛子様でした。若手研の皆様から、学生にとって非常に有益な内容のご講演をいただきました。学生は先生、先輩方のご講演に熱心に耳を傾け、それぞれにおいて多くのことを学ぶことが出来たと思います。ご講演いただきました先生、先輩方には、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

また、それぞれの日の夜には懇親会も開かれ、多くの社会人、学生の参加がありました。お酒を酌み交わしながら、こちらの場でも非常に有意義な意見交換、議論が行われました。先生方と学生の間の交流、ならびに学友会としての絆がさらに深まったのではないかと思います。

本発表会は、多くの方々のご厚意に支えられ、無事第2回目を開催することが出来ました。しかしながら、こういった活動は継続させていくことが重要であると考えます。今回の経験を糧に、さらに充実した「第3回学生発表会」の開催を目指し、今後も学友会としての活動を活性化していけたらと思います。最後になりましたが、本発表会にご協力いただきました全ての皆様に関心から感謝の意を表したいと思います。



(東京大学原子力国際専攻修士1年 嶋田 智昌)

専門研究会報告

放射線リスクコミュニケーション専門研究会の活動状況

10月以降は、以下の活動に取り組んできました。今後は、今年の研究発表会でのリスクミセッションの準備を進める予定。

第8回検討専門研究会

1. 日時：平成21年1月16日（金）10:00～12:20
2. 場所：日本原子力研究開発機構 東京事務所 第5会議室
3. 出席者（敬称略、五十音順）
大内浩子、篠原邦彦、渡辺浩、米澤理加
4. 議事内容

(1) 学会への提言について

これまでの研究会の活動から、学会員のリスクコミュニケーションに関する理解が十分でないと感じてきた。そのため、学会員に対する啓発活動を継続していくことを提言する。

また、専門研究会メンバーも学会誌やニュースレターを通して、ボランティアに情報提供を継続する。

(2) 活動報告について

① 報告会について

- ・ 今年の研究発表会で1時間程度の時間（活動報告、問題提起、ディスカッション）を設ける。
→ 企画委員会と相談。できない場合は、例年通り活動報告をポスターにして掲示する。
- ・ 企画のテーマは、「保物学会にリスクコミュニケーションは根付くか?!」。
→ 2年間の研究会の活動を通して、「できるはず」と思っていたが「できなかった」ことが「なぜできなかったか」について問題提起し、議論する。

② 報告書について

-
- ・ 活動の趣旨、活動暦、提言などをまとめ、PDF にしてホームページに掲載する。

シンポジウム開催（前号で詳細は報告済み。）

1. 日時：平成 20 年 10 月 4 日（土）13:00 ～ 17:00
2. 場所：千代田テクノロ株式会社（2 階会議室）
3. 出席者：参加者：57 名（講師を含む。）
4. 内容

(1) 基調講演

「原子力のリスクコミュニケーション-とくに放射線問題を中心に」

国際高等研究所 木下富雄先生

(2) 専門研究会報告

活動報告、リスコミ講座の開設、リスコミ事例紹介など

(3) パネルディスカッション

「我々はリスクコミュニケーションにどう取り組むべきか」

リスクコミュニケーション講座の開設

リスクコミュニケーション講座は、ホームページ上に平成 20 年 9 月に開設し、11 月、平成 21 年 1 月まで、3 回シリーズで掲載した。

(原子力機構 米澤 理加)

ラドン測定標準化専門研究会

「ラドン測定標準化専門研究会」は、ラドン測定に係る標準的な手法を提案し、また、技術上の課題を明確化することにより、将来的な日本の国家標準の確立に貢献することを目的として、平成 20 年度より活動している。第 2 回目の専門研究会を以下の通り開催した。

第 2 回ラドン測定標準化専門研究会議事

1. 日時：平成 21 年 1 月 16 日（金）13:00～17:00
2. 放射線医学総合研究所 第 2 会議室
3. 出席者：委員 9 名、オブザーバー：4 名
4. 議事概要

国内の標準化に係る取り組みに関して、委員より原子力機構と放医研の活動について紹介があった。

また、ラドン測定標準化専門研究会の報告書について、今後のとりまとめスケジュール等を含め審議・検討を行った。そのほか、ISO、IAEA 等、国外のラドンに係る動向について紹介があった。

(原子力機構 石森 有)

放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会

本専門研究会は、従前からの放射線防護の考え方をレビューし、放射線安全についての新しいパラダイムを検討することを目的に活動しています。

第 3 回会合を 12 月 10 日（於 東京）に開催しました。

前回までの会合で提示された今後の放射線防護の考え方や原則についての実情調査の一環として、低線量被ばくの生物学的影響に関する知見を収集するため、放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 副センター長の丹羽 太貫 先生をお招きし、放射線生物学の専門家の立場からの御意見を中心とした御講演（演題：放射線の生物影響の実態を社会としてどう評価するか）をいただきました。チェルノビル事故からリスクの実態と社会的評価までの多岐にわたる情報を基に、結論として、「リスクに対する社会のパラダイムシフトが必要」との御意見が提示されました。

次いで、NCRP 年次総会（小佐古主査）、WNA 活動状況（宮崎委員）および UNSCEAR の最新レポート等に関する資料を用いて、国際動向の確認が行われました。また、(1)公衆被ばくの線量拘束値下限に関する考察、(2)IRPA12 とアジアの放射線防護関連学会との関係（服部委員）、(3)放射線審議会における放射性廃棄物の埋設規制除外の基準の見直し、(4)当学会の放射線防護標準化委員会における現存被ばく状況に関する検討（小佐古主査）等について話題提供がなされました。

今後の活動として、提示されたファクトの整理と並行して、具体的なアクション（保安院への働きかけ、事業

者との意見交換)を行っていく予定です。

(幹事 東京大学 阿部 琢也)

学会掲示板

次期専門研究会の募集結果について

12月末を締め切りとしてメーリングリスト、ニュースレターを通じて2009年度開始の次期専門研究会の募集をしましたが、応募はありませんでした。そのため、年度途中でもかまいませんので、新規専門研究会設置の応募案件がありましたら適宜企画委員会で受け付けることとします。手続き等の詳細につきましては、以下の学会ホームページに掲載されている専門研究会運営細則をご覧ください。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules_pdf/rule_002.pdf

(原子力機構 古田 定昭)

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・メーリングリスト管理(主査兼務)
山崎 直(原子力機構)
- ・ホームページ保守
中野政尚・吉富 寛(原子力機構)、荻野晴之(電中研)
- ・ニュースレター編集
佐川宏幸(福山大学)、鈴木敦雄(静岡県)

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局(jhps@iva.jp)まで配信先アドレスを連絡願います。

(IG主査 原子力機構 山崎 直)

学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO事務センターにお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説(1995) 1,777円(30部)
- 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998) 1,700円(51部)
- 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) 2,000円(81部)
- 4) 自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001) 1,700円(127部)
- 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002) 2,000円(159部)
- 6) 放射線の人体への影響 第3版(1986) 800円(会員割引価格、送料込) (4部)
- 7) 放射線の人体への影響 第5版(1992) 800円(会員割引価格、送料込) (15部)

連絡先: 日本保健物理学会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-3-716

事務センター

TEL 03-5339-7286 FAX 03-5339-7285

E-mail: jhps@iva.jp

書評「改訂版 放射線管理実務マニュアル（編集発行社団法人日本アイソトープ協会） ISBN978-4-89073-195-4」

IAEA 基本安全基準（BSS）による免除レベルの法令とり入れや定期確認制度の創設、選任主任者に対する定期講習導入などの平成 17 年の障害防止法改正を機に、最近の医療分野などにおける放射線利用の拡大にも対応できるよう、本書の改訂版が出版された（2008 年 11 月）。使用等に必要となる諸手続き、記帳・記録や点検のノウハウ、予防規程の作成のポイント、使用許可申請書の具体例などが、さまざまな放射線施設における使用や管理の実際を熟知する執筆・編集委員により再整理されている。現場的な観点での最も新しい知見が効果的に盛り込まれており、管理の実務に大変に役に立つ一冊である。

（東大・環境安全本部 飯本 武志）

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木 敦 雄（静岡県環境放射線監視センター）